

ジャンル	子ども・教育	日本語学習	医療・福祉	労働	災害対策	意識啓発 地域づくり	推進体制の 整備	その他
事業名	防災から広げる共生のまちづくり 2011							
団体名	公益財団法人 滋賀県国際協会							

\*\*\*\*\* 事業のポイント \*\*\*\*\*

- ・ 外国人に防災啓発事業をするにあたって、「いかに振り向いてもらえるか、興味を持ってもらえるか」の視点から始めたこと。啓発グッズは外国の人にも日本の人にも、分かりやすく可愛かったために好評だった。
- ・ 滋賀県消防学校で外国人対応の講義を実施できたこと。事前調査も行い、講義は面白くて役に立つ実践形式の内容とした。

助成年度	平成 23 年度地域国際化施策支援特別対策事業	事業総額	742 千円
------	-------------------------	------	--------

事業の内容、成果等

1. 多言語防災カード付きボールペンの制作と防災啓発イベントの実施

●事業実施の背景 ～関心もたれる防災グッズを～

2011 年度の啓発事業として当協会では防災啓発グッズの制作を企画していたが、そうした中、東日本大震災が発生。仙台市に設置された災害多言語支援センターに当協会から職員2人を派遣し、翻訳コーディネートなどの業務にあたった。外国人被災者にとっては外国語による情報提供が被災直後だけでなく生活再建、復興のために必要となることや、災害発生後には安否確認のため本国から多数問い合わせが入ってくることなどがわかった。

●事業の概要

これまで各地で、多くの外国人向けの災害や防災に関するパンフレット、携帯式のカードが作られていたが、それらをいかに見てもらい、書かれていることを家族や知人と共有してもらうかが課題と考えていた。そこで、お土産用の巻き込みカード付きボールペンをヒントに、多くの情報が掲載でき、持ち歩きがしやすいペンを活用した防災グッズを作れないかと考えた。このグッズの制作にあたっては、如何に外国人が関心をもち、話題にしてもらえるかということを念頭に置き、ペンにはNHK大河ドラマのゆるキャラ「お江(ごう)ちゃん(滋賀県)」と「ひこにゃん(彦根市)」のイラストを掲載し、一見普通の可愛いペンだが、いざという時役に立つグッズという意外性を持たせることができた。

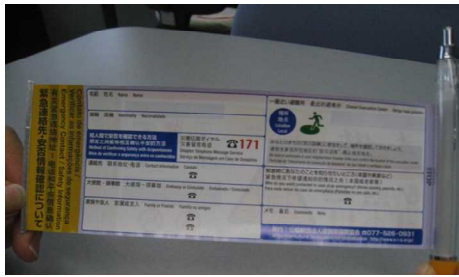
ボールペン



ペンの紙を引き出すと・・・



裏面(緊急連絡先などが記入できます)



災害ボランティアとの防災啓発グッズの検討と翻訳



### ●工夫した点 ～県内留学生などの意見を反映～

ボールペンの巻き込みカードは、滋賀県で使用頻度の高い3言語(ポルトガル語、中国語、英語)と日本語の計4言語で表記。カードの表面は「地震発生後の対応」、裏面は「緊急・災害時の安否確認に役立つもの」としている。また、外国人の視点や声を反映させようと、防災啓発グッズの検討会という形で県内の留学生や協会登録ボランティアに集まってもらい、意見を出してもらった。

結果、ペンに記載する内容としては、表面には外国人向けのリーフレットを参考に、地震発生後にとるべき行動について紹介した。また、県内在住外国人から、「私たちは地震をよく知らないから、大地が割れた、地球が終わると思ってパニックになってしまう。だから、まず何よりも落ち着くことが大事。それを伝えるべきだ」という意見があったことから、「落ち着いて!」と短く書き添えた。

ペンの裏面には、緊急連絡先と安否確認の方法について記入スペースを設け、緊急時には本人の身元確認や知人への連絡用に使うことができる。ペンは3千本制作し、次に紹介の平成23年の秋に実施した国際交流イベントの防災啓発コーナーで啓発用チラシと併せて配布した。

### ●防災啓発に向けた取組

#### ■「ええやんか! おうみ多文化交流フェスティバル」での外国人住民向け防災啓発

日時:平成23年9月25日(日)

このイベントは来場者1万8千人と大規模なものだが、ここでも県内の留学生や学生のボランティアサークル、当協会災害時外国人サポーターにスタッフとして参加してもらい、起震車の体験や非常食の試食、非常持出袋の多言語による紹介、アンケートや前述のボールペンの配布などを行った。イベント当日のボランティア間の連携・交流の場ともなり、口々に「楽しくて、ためになった。また呼んで下さい」と次回を期待する声が多かった。

おうみ多文化交流フェスティバル  
防災啓発ブース



#### ■ 県内外にボールペンを紹介、配布

県内の市町国際交流協会や外国人支援団体、日本語教室、外国人学校などを通じてボールペンを配布。市町の国際担当からも、窓口配布や啓発用に使いたいと依頼があり、「災害について考えるきっかけにしやすい」「アイデアが受けていた」「他のイベントでも使うのもっと欲しい」などの声が寄せられた。県内の消防本部に持参した際は、「こういう方法があるとは。ぜひ自分たちもPRや予防活動に使ってみたい」と、興味と関心が集まった。

そして、新聞記事に掲載されたことをきっかけに、広報業界誌の一つである雑誌「月刊広報」の表紙として採用され、他県のラジオ局や市町役場などから問い合わせをいただくこととなった。なお、このラジオ局の番組には防災と外国人をテーマに、2回出演の機会をいただいている。

制作した3千本は全て配布を終了しているが、依然追加を希望する声も多い。機会があれば、ぜひまたこうしたグッズによる啓発・普及に努めたい。



## 2. 消防署への外国人対応についてのヒアリングと消防職員を対象に研修の実施

### ●事業の概要

～県内消防本部への聞き取り～

期間:平成23年11月15日(火)～12月20日(火)

当協会が滋賀県防災危機管理局の協力を得て、県消防学校での外国人対応に関する研修を提案し、初級幹部職員(経験20年程度)を対象に実現するに至った。

そこで、研修内容をより具体的なものにするため、事前に研修の準備として県内にある8管内全ての消防本部を回り、ヒアリングを行うこととした。「外国の方への対応の有無」「その際困ったこと、課題になったこと」「外国の方向けに特に気を付けていること、心がけていること」「外国の人に伝えたいこと」等7項目にわたって聞き取り、実態を率直に聞かせてもらった。そして地域性や、外国人ならではの課題などについて把握・分析することで、研修内容をより実践的かつ現場のニーズに応えられるものに組み立てることが出来た。あわせてこのヒアリングは、当協会の事業や取り組みを消防署の方に知ってもらう機会にもなった。

～消防職員対象「緊急／災害時の外国人への対応に関する研修」～

日時:平成24年1月12日(木)13:00～16:50 参加者:消防職員(初級幹部) 20人



内容:①“「言葉がわからない」体験教材 何が起こった?(震災編)”を用いたワークショップ:当協会が平成22年度先導的施策支援事業助成金をもとに開発した教材を用いて、災害時に言葉がわからないことから被る不便さや不安を疑似体験するワークショップを行った。

②「やさしい日本語」による外国人への対応について:外国人対応に有効な「やさしい日本語」についての講義と、シミュレーション形式での留学生との会話練習を行った。

研修では、具体的な外国人対応の方法や心構えについて、「言葉がわからない 体験ゲーム」教材と、「やさしい日本語」のワークショップを交えて講義を行い、留学生にもボランティアで参加をしてもらうことで、臨場感あふれる雰囲気での講義とした。また、終了後のアンケートでは「言葉がわからない 体験ゲーム」を通じて外国人の災害等に対する不安な気持ちが理解できた」「今後は不安を解消できる接し方、話し方をしていきたい」「現場で活用していきたい」「日頃の通報においても、指令課員として今後の通信業務に生かしたい」などの声が寄せられ、現場で即座に使える点が評価を受けた。続けて平成24年度についても消防職員初任者研修での講義で授業の要請があり、5月に消防学校にて講座を行ったところである。

